

第 114 回 番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 30 年 7 月 31 日 (火) 18 時 30 分
- 2 開催場所 久留米市中央町 35-20
ドリームスエフエム放送(株) 本社
- 3 委員出席 委員総数 6 名
出席委員数 3 名
出席委員氏名 田中 優子・白谷 由紀子・中西 昌人
(レポート) 中澤 剛
放送事業者側出席者 秋穂 真由美 内藤 圭祐
- 4 議題 (1) 久留米市防災啓発番組「防災ワンポイントくるめ」
(2) 「防災インフォメーション」
- 5 議事の概要 放送事業者が資料とともに 事前に CD に収録した番組を各委員へ届け、感想、意見を述べて頂いた。
- 6 審議内容 ① 番組名:(1) 久留米市防災啓発番組「防災ワンポイントくるめ」
(2) 「防災インフォメーション」
② 放送時間:(1) 毎月第 1 月曜日 13 時 20 分～
(2) 平日 15 時 55 分、16 時 55 分
③ 放送形式:(1) 生放送 (2) 録音番組(ミュージックバード制作)
④ 審議の対象:平成 30 年 7 月 2 日 放送分
⑤ パーソナリティ:(1) たけうち いづる
⑥ ディレクター:(1) 内藤 圭祐

【番組コンセプト】

毎月第 1 月曜日に放送している久留米市防災啓発番組「防災ワンポイントくるめ」では、久留米市と周辺で想定される季節毎の災害について防災・減災の観点から情報を発信しています。(1 月は阪神淡路大震災を受けての地震による圧死の防止、3 月は東日本大震災を受けての避難の大切さ、夏場は大雨・台風、秋から冬は火災、普段からの情報収集についてなど)また、平日の 15 時 55 分と 16 時 55 分からは約 3 分半の防災番組「防災インフォメーション」では、地震や津波、火災、避難所、災害弱者などをテーマに毎日ランダムに放送することで、日頃から防災意識を高めることを心がけています。

委員のご意見

久留米市防災啓発番組「防災ワンポイントくるめ」・「防災インフォメーション」

- ① 防災啓発に関する情報が増えて、実際に中身まで聞かれずにまた同じ話だと聞き流してしまうケースも多いと思われる。7月の西日本豪雨で警戒警報が鳴っても行動しないという警報慣れと同じような構造で、日頃の備えについても自分は理解して行動していると思いがちになっているのではないだろうか。どう伝えるかというところで工夫が必要。今回の場合は防災啓発のマニュアル的なことを伝えているような印象を受けたので、具体的に言えば筑後地区も様々な災害を経験しているわけで、その時々避難所や防災メールが命を守るために果たした重要性を具体的に話すなど、より身近な事例を話せば話も伝わり易いのでは。
- ② 毎月1回啓発番組が放送されるのであれば、今回の災害の教訓として事例を交えて話してもらえればより効果的に災害対策・防災知識を拡げるといった目的を達するのでは。
- ③ 全国各地で緊急告知防災ラジオの活用が始まっているが、いかにピンポイントの情報を知らせるのが重要である。今回は広島・岡山・山口の被害状況がメディアでクローズアップされすぎて、地域で起きている災害状況や必要情報が陰に隠れてしまって、本当に困っている人たちに情報が届かないという状況があった。その中で最も活躍するのがラジオやSNSであり、被災者が持つピンポイントな情報をリアルタイムに発信することが出来ると思う。緊急告知防災ラジオの起動は自治体から受けた情報を流しているケースが多いと思うが、ぜひとも住民やリスナーの万に備えて災害時の登録制度を作り、情報提供してもらいながらリアルタイムな放送をする仕組みが将来出来たらいいなとこの番組を通じて感じた。
- ④ 防災・減災のための番組を定期的に放送することはとても良いことだと思うが、少し一般論に終わっているような印象を受けた。具体的なピンポイントな情報が欲しい。今回ハザードマップについて紹介があったが、久留米市内のハザードマップでの危険区域など中身を少しでも紹介するとより身近になるのでは。
- ⑤ 減災につなげるために大事なことの1つとして昨年の九州北部豪雨のときから言われているのが、地域の過去の水害について知っておくことである。朝倉エリアにおいても300年前の水害のことを忘れており、そのとき被害が出ていた地名がまさに同じ地名であった。こういうことこそコミュニティラジオで情報発信してリスナーの記憶にとどめ続けるような工夫をされる方がいいのではないだろうか。
- ⑥ 防災インフォメーションについては、短い時間でワンポイントアドバイスのような情報発信をされていてよかった。AEDの使い方なども専門的すぎて普通の人は使ってはいけないのではと思いがちだが、AEDの装置自体が使用していいか判断してくれるなどの情報は知らなかったので発信してくれることはいいことだと思う。また、

避難所について疑似体験すると良いと言われていたが、どういう風に疑似体験できるのかの具体的な話があると良かった。

- ⑦ 防災啓発のための情報発信としての番組編成の試みは素晴らしく、今後も内容を充実されていくことを期待したい。久留米市の番組は説明主体で聴いてもすぐに理解につながらなかった。ただ原稿を読むだけでなく、一般の人にわかりやすい言葉で、自分の意思を込めてしゃべってほしい。それが標準語でなくても問題ない。反対に、防災インフォメーションについては専門家と女性アナウンサーとのかけあいになっていて聴きやすかった。
- ⑧ 久留米市には7月の西日本豪雨の教訓事項についても情報発信してほしい。災害対処は自助・共助が7割以上である。避難勧告に従わず自己判断で災害にあった方が多かったことが今回の一番の大きな教訓ではないだろうか。住民の避難を促す意味でもぜひ実施してほしい。
- ⑨ 想定できない災害が多く起きている中、地元のFMでこういったことを取り上げることは大事だと思う。関心が高いテーマなので誰が聴いても耳に入ってくると思う。防災啓発番組は市民向けにしっかり伝えている内容になっていると思うが、話し方がとても堅いので少し聞きづらいところはあった。

7 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページへ掲載

8 次回の審議委員会は、平成30年9月25日（火）18時30分から行う予定